

真宗大分

新年のご挨拶

大分教区教務所長 寺井紹道



新年明けましておめでとう
ございます。

お念仏と共に新年をお迎え
のことと、お慶びを申し上げ
ます。

私こと、大分教区にお世話
になり、アツと言う間に一年
が過ぎました。着任以来、大
分教区の御同朋・御同行の皆
様方に大変なるご指導ご鞭撻
を賜っておりますこと衷心よ
り感謝申し上げます。

さて、蓮如上人が79歳の正
月元旦のとき、挨拶に訪れた

弟子の道徳に、「道徳はいく
つになるぞ、道徳念仏申さる
べし。」(蓮如上人御一代記聞
書・上)と仰せになりました。

凡夫が間違いない、無条件
で唯今救われるみ教えが届け
られてあります。「念仏成仏
これ真宗」(浄土和讃・大経讃
とお示しのように、浄土真宗
に於いては、元旦からお念仏
の申される生活は、めでたく
も有難いことであります。

有史以来、人は争いによつ
て計り知れないほどの悲劇を
繰り返しております。愚かだ
と知りながら・・・宗祖親
鸞聖人は「世の中安穏なれ、

第124号
創刊 昭和41年8月
発行所
大分教区基幹運動
推進委員会
〒874-0920
別府市北浜3丁目6-36
本願寺別府別院内
TEL 0977-22-0146

仏法ひろまれ」(御消息)と
述べられ、凡夫を中心にした
世界ではなく、お念仏を中心
にした世界にこそ、真の平和
があると教えてくださってあ
ります。

昨年よりの経済危機も手伝
つて益々世の中は混迷を深め
ております。

今こそ、「いのち」が尊ば
れ、心豊かに生きることので
きる世の中、平和な世界を築
くため、念仏者の誇りと自覚
を持って、手を携えて精進い
たしましょう。

愈々、宗祖親鸞聖人750
回大遠忌法要も近づいてまい
りました。

50年に一度のご勝縁に遇う
慶びと身の引き締まる思いで
新年を迎えております。

合掌

住吉浜の空高く、「エコーでいこうえ」!! 第三十五回九州地区真宗青年の集い大分大会



総裁(新門)様お言葉

かせ、共感・共
鳴していただく
(エコー・Echo)
ことが目的であ
りました。
初日の十八日
は、「エコーで
いこうえ・ツアー

秋晴れの好天に恵まれた昨
年の十月十八・十九日の両日、
大分教区仏教青年連盟(岸秀
史委員長)の担当により、浄
土真宗本願寺派門信徒の集い
第三十五回九州地区真宗青
年の集い大分大会が杵築市の
住吉浜リゾートパークで開催
され、教区内外から一六四人
の参加者で賑わい、活況を呈
しました。

大会テーマは、「エコーで
いこうえ」その一声がこだ
まする」で、今叫ばれてい
る環境問題を軸として、私た
ちを取り巻く環境について考
えるという意味のエコロジー
(Ecology)を、「私」から
ひろく内外の人たちの心に響
き、続いて二日目(十九日)は、
「エコーでいこうえ・トーク
編」という企画で、班別に分
科会を開き、それぞれにエコ
について、自分出来ること
を話し合い、「前日のツアー
編」で、一日で自分の使う水を
運び、こんなに使っているの



大会集合写真

かと驚いた。小まめに節水したい「これからは「マイ箸」を使って割り箸を使わないようにしたい」等、活発に意見交換が繰り広げられました。

二日間の日程で、私達の切実な問題である環境問題やエコロジー活動について、今まで以上に関心と実行力が得られたのではないかと思います。私達は人間の英知のみで生きているのではなく、様々なもののほたらきの中で生かされていることに、改めて気付かせていただいた二日間でした。この希有なるいのちのほたらきは、まさしく如来さまのエコー(回向)であると。

基幹運動のページ

— 教章(私の歩む道) —

本年(二〇〇八年)四月、ご門主が「浄土真宗の教章(私の歩む道)」(※以下、「新教章」)をご制定されました。

年度当初のご制定でありましたので、教区において早めに「新教章」についての研修会を開催して欲しいとの要望は寄せられていたのですが、諸事情のため、なかなか開催できずにいました。

ご制定から七ヶ月後の、十一月十八日、教区同朋専門委員会主催で、上山大峻教学伝道センター所長、ご講師にお迎えし、公開講座を開催することができました。

当日は、「教章」についての親教もテキストとしながら、前門様の「教章」と比較しつつ、昨年九月に改正になった「宗制」との関わりを通して、今回の「新教章」ご制定の意義、ご門主の思い・願いをお聞かせいただいたことです。ここであらためて、ご門主の「教章制定についての親教」をみてみましょう。

宗祖親鸞聖人の御誕生八百年・立教開宗七百五十年を控えた一九六七(昭和四十二年)年四月、当時の宗門を憂えられた大谷光沼門主が「浄土真宗の教章」を定められ、親鸞聖人の流れをくむものとして、心に銘ずべき肝要を示されました。以来四十年余り、そのご教

示は、浄土真宗門徒の信仰生活の規範となってきました。

一方、宗門は一九四六(昭和二十一年)年に制定された「宗制」を根本にして活動してきましたが、このたび「宗制」が改正され、時代を超えた不変のことがらと時代に即応すべきことがらが整えられました。

それにともなつて、新しい教章を制定いたしますと、先ず前門様の「教章」に触れられ、昨年九月に「宗制」が改正された意義を、「時代を超えた普遍のことがらと時代に即応すべきことがらが整えられた」と述べられ、「それにともなつて、新しい教章を制定」されることを述べられています。

ご親教では、ここから「新教章」の全文が述べられています。が、囲みにて掲載いたします。全文の後、ご門主は、「新教章」への思い・願いを述べられます。

この「教章」は、わが宗門に集う方々に、ぜひ心得ていただきたい浄土真宗の要旨であるとともに、新たにご縁のできた方に、み教えを理解していただくための手引きでもあります。私たちが、近く宗祖親鸞聖人の七百五十回大遠忌を

お迎えいたしますが、この大遠忌を機縁に、先人の方々が身をもつて伝えてくださった親鸞聖人のおこころを深く受けとめ、浄土真宗のみ教えを混迷の時代を導く灯火として高く掲げ、人々に広く伝えながら、ともに世の安穩をめざして歩みたいと思えます。

この「教章」を身近に備え、折りにふれて参照し、浄土真宗に親しんでくださるよう期待いたします。二〇〇八年(平成二十年)四月十五日 門主 大 谷 光 真

「新教章」は、「わが宗門に集う方々に、ぜひ心得ていただきたい浄土真宗の要旨で

きた方々に、み教えを理解していただくための手引きでもあります」と、ご門主は述べられています。そして、「身近に備え、折りにふれて参照し、浄土真宗に親しんでくださるよう期待いたします」と願われています。

上山先生の講義で「聖典」に、日頃から門徒さん達に親しまれて「正信偈」、「ご文章」をあげられていることからも、親しみやすく身近なことからとのお気持ちでは「二身近に備え、折りにふれて参照し、浄土真宗に親しんでくださるよう期待いたします」のお気持ちをお教えた

講義・質疑の詳しい内容には紙面の都合上触れられませんが、「宗名」が、「宗名」、「宗派」、「本山」ときちんと整理され

たこと。②「宗祖」から、「見真大師」の大師号がはずされたこと。③「大師号」に関しては次号以降にまとめたいと思つてます。④「宗祖のご往生の西暦表記が二二六三三年」に(弘長二年は一二六二年に当たるが、旧暦の弘長二年一月十八日は、新暦の二二六三年一月一六日になる) ⑤「教義」に、「この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還つて人々を教化する」と明記されたこと。⑥「私たちが今まで布教伝道してきたこと」「往相」「浄土往生」までで終わつて

なかつたか) ⑤「生活」の、「慚愧と歡喜のうち」に「送る生活とは。⑥「宗門」において、我が宗門・教団の目的をあげて、我等々の他多くのご説明・ご指摘をいただきました。ご門主の「身近に備え、折りにふれて参照し、浄土真宗に親しんでくださるよう期待いたします」に、私たちはどう応えていくべきでしょうか。先ず「新教章」のお心をきちんといただき、ご門徒さん一人ひとりにどうお伝えすべきなのか。月参りなどに印刷して持参する、法事の法話に活用する、組の研修会で学び合うなどの動きを考えていきましょう。

最後に、「宗門」の「自我」ともに心豊かに生きることとは、「で「生まれてきて良かったね」と生きていける」とお話を身近に感じたことでした。

たこと。②「宗祖」から、「見真大師」の大師号がはずされたこと。③「大師号」に関しては次号以降にまとめたいと思つてます。④「宗祖のご往生の西暦表記が二二六三三年」に(弘長二年は一二六二年に当たるが、旧暦の弘長二年一月十八日は、新暦の二二六三年一月一六日になる) ⑤「教義」に、「この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還つて人々を教化する」と明記されたこと。⑥「私たちが今まで布教伝道してきたこと」「往相」「浄土往生」までで終わつて

なかつたか) ⑤「生活」の、「慚愧と歡喜のうち」に「送る生活とは。⑥「宗門」において、我が宗門・教団の目的をあげて、我等々の他多くのご説明・ご指摘をいただきました。ご門主の「身近に備え、折りにふれて参照し、浄土真宗に親しんでくださるよう期待いたします」に、私たちはどう応えていくべきでしょうか。先ず「新教章」のお心をきちんといただき、ご門徒さん一人ひとりにどうお伝えすべきなのか。月参りなどに印刷して持参する、法事の法話に活用する、組の研修会で学び合うなどの動きを考えていきましょう。

最後に、「宗門」の「自我」ともに心豊かに生きることとは、「で「生まれてきて良かったね」と生きていける」とお話を身近に感じたことでした。

たこと。②「宗祖」から、「見真大師」の大師号がはずされたこと。③「大師号」に関しては次号以降にまとめたいと思つてます。④「宗祖のご往生の西暦表記が二二六三三年」に(弘長二年は一二六二年に当たるが、旧暦の弘長二年一月十八日は、新暦の二二六三年一月一六日になる) ⑤「教義」に、「この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還つて人々を教化する」と明記されたこと。⑥「私たちが今まで布教伝道してきたこと」「往相」「浄土往生」までで終わつて

『念仏講座』に寄せる

願い・期待

— 教化団体再起に挑む —

各組めぐり
⑮
院 内 組

院内組は、大分県の県北中山間地に位置し、旧院内町と旧宇佐市西部灘地区を区域としています。本区域の約70%が山間地であるため、農林業が主産業となっており、少子高齢化が著しく進んでいる典型的な過疎地であります。組内の様子ですが、組内は現在本派寺院11ヶ寺で構成されています。11ヶ寺のうち2、3の寺院を除いては、兼職をしながら維持運営に務めている小規模寺院が大半であります。こうした社会現象は、寺院活動とりわけ組教化団体活動(組仏婦・組仏壮)にも大きく影響を受けてきました。

原点はご法義中心

組法中会では、組教化活動を活性化するため昨年「みなおし」の会合を数回開



きました。その主な意見では院内組仏婦の活動停滞の原因は、「組側が計画的に役員後継者の養成に取り組まなかったこと。」など、これらの意見を含めて10数項目の反省点指摘されました。

実はこのような意見が出る背景には院内組独特の事情もありました。組仏婦は昭和63年11月に結成され、以来歴代の会長さんを中心に会員一丸となつて仏婦活動が進められていました。当初の活動は、

『真宗念仏講座』のすすめ

本年4月、仏婦・壮年の核

会員自身の資質の向上をはかる学習事業を主に実施していましたが、いつの間にか「お念仏に聞く」姿勢が薄れ、その活動のほとんどが形骸化し行事消化に陥ってしまいました。会長や一部の役員に任せきりとなり、気がついたら役員を引き受ける人がいなくなりました。その間、組は的確な指導助言をしないままでした。こうした中で、昨年末の反省会の席において多くの方々から前向きな意見をいただきました。中でも門徒総代や単位婦人会員から「なによりもご法義が中心の会であること。」「今、種を播かないと10年20年経とうが指導者はいつまでも育たない。」など原点にもどれる声でした。これらの力強い意見に押された院内組は、平成20年度いよいよ新たな第一歩を踏み出すこととなりました。



づくり事業「院内組真宗念仏講座」が組会において承認されました。講座・受講生(今回は60歳未満で男女問わない)の募集は、組内寺院を通して募集したところ20名を越す応募がありました。第1回の講座は、9月16日午後7時半正立寺(向曉組相談員)本堂において受講生21名のほか組法中7名参加のもと聞かれました。指導スタッフには30代40代の住職5名があたり、開講式のなかで本講の開講趣旨について理解を深めてもらい、おつとめは正信偈(六首引)を全員で読誦、講師は組内法中の順番制により初回は徳心寺・小溪住職でした。講

義は以来毎月第3水曜日に聞かれています。

今後の展開と期待

まだ事業活動としてはスタートラインに立ったばかりで、評価を出すのは難しいのですが、2回3回と開くにつれて部外者からの問い合わせもあり、3名ほど途中入講されています。院内組では、以前取り組んでいた連研(現在休止)活動の反省から、第1期講座生には3年間通して継続受講をしていただくことを基本ラインとしています。その後は新たに第2期生募集を促進する計画です。第1期生のみならず方には、既に学んだことを生かす自主的な活動の展開を期待しているところであります。また、併せて単位仏婦の立ち上げや、仏壮組織の素地づくりなど「お念仏中心」の教化団体活動の促進に参画してもらい、定着をはかってまいりたいと組内の法中一同、さらに意気込んでいるところであります。

第31回 仏教婦人(女性)大会



11月11日(火)北九州メディアドームで、九州地区門信徒の集い第31回仏教婦人(女性)大会が開催されました。九州各県から約6,000名の方が集い、ステージのお裏方様の顔も、大きなパネルで見ないと、全くわからない状況でした。

タレントの島田洋七さんもこんなに多い女性の前で話すのは、大阪の一万人以上で2番目だそうです。しかし、凄いですね。一時間以上笑ったり、泣いたり、顔がくしゃくしゃになりました。さすがです。

姜 暁艶さんの二胡・森 琢磨さんの演奏に酔い、ご講師宮本先生のお話と共に、心温まる一日でした。準備をされた北豊教区の皆様方に感謝の思いで、北九州をあとにしました。

姜 暁艶さんの二胡・森 琢磨さんの演奏に酔い、ご講師宮本先生のお話と共に、心温まる一日でした。準備をされた北豊教区の皆様方に感謝の思いで、北九州をあとにしました。

およろこび記事

【法 要】

10月25日・白佐組 西教寺

住職継職法要

本堂屋根修復落慶法要

「奉讃伝灯作法」

稲田 静真師(大分)

11月9日・大海組 専念寺

住職継職法要

「正信念仏偈作法」

北條 信海師(大阪)

【住職就任】

佐藤 天親

日田組 光明寺

(平20・10・9 就任)

前田 顕城

宇佐組 崇福寺

(平20・10・31 就任)

清水 昭親

東国東組 光永寺

(平20・12・19 就任)

おくやみ

次の方々のご逝去されましたので、生前のご苦勞を偲び謹んで敬弔の意を表します。

○大久保得忍(平20・9・3)

豊後高田組 極楽寺 前住職

○菅原 清心(平20・9・7)

津房組 観源寺 前住職

○岐部三保子(平20・10・5)

国東中組 常念寺 坊守

○岸 ミヤコ(平20・11・1)

大海組 誓岸寺 前坊守

○尼子 顕寿(平20・11・26)

宇佐組 蓮照寺 衆徒

○杉本美津子(平20・12・15)

速見組 専教寺 前坊守



編集後記

冷たい中に身も心も引き締まる時節。門徒も多忙です。先日、我が家に十一年一緒にした犬が死にました。

動物とはいえ、みな心の癒し、またある時は憂さ晴らしと人間の思いようで過ごしたものです。小さな体に人間がどう写ったことか。あと三ヶ月くらいかな?と言われてはいたものの、毎日病院通いが半年。急に悪化した日は一晩苦しそうに吠え、偲びず安楽死を選んでしまいました。

最後まで、看取りをしてやれなかった後悔はいまだに残ります。今度生まれてくる時は両手を合わせる身に生まれておいでと言ってしまいました。

生きとし生けるもの、いのちの重さに変わりないと聞かされながら、人間の都合があったことも確かです。迷いの中にいる私だから、ついて離れないお方を思わずにはおられません。